井草会会報

第9号
発行所
井草高校井草会
会報委員会
発行責任者
井草会会報委員長
築山俊一

五月十九日は井草で会いましょう

—井草高校同窓会—

新緑の風かおる五月、例年通り第三日曜日、母校井草高校において、同窓会最大の年中行事である総会を開催いたします。男女を問わず、同窓生というキズナのもとに、おおいに歌ったり踊ったり、ダベッタリして青春を謳歌し、たのしい一日を過しましょう。

今年もまた同窓会のシーズンがやって来ました。井草同窓会も今年の新入会員を入れて二十五期六千六百名をこえる大世帯となりました。

井草の第一回卒業生が井草を卒業したのが、戦争末期の昭和二十年三月。井草同窓会は新生日本の誕生と共に歩みを始めたわけです。

こうした背景をもっているせいか、井草同窓会は非常に若々しく自由と平和を愛する卒業生の集まりとして、現在まで発展して来ました。

井草同窓会総会の特色は、若い層が中心ですので、あまり格式ばらずに気楽に楽しんでもらうよう毎年努力しております。

本年度も総会は予算決算報告活動方針など簡略に三〇分位で終らせ、あとは二時から五時までゆっくり楽しんでいただくよう企画いたしました。

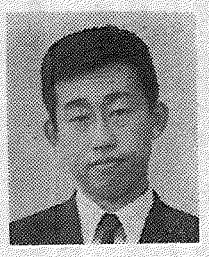
催し物の案内ですが、まず同期会室を二部屋設け級友同志やクラブの先輩後輩などが、コーラやビールをかたむけながらじっくり腰を落着けて話し合えるムードにしておきます。昨年などヨチヨチ歩きのお子さんをおつれになった三～四回生のお母さん方が井草に長くいる先生を囲んで、なごやかに話しておられる光景がみられました。

次にヤングマンコーナは十七回卒のエレキのグループサウンズによる演奏でゴーゴーなど若いタッチのリズムで踊ったり、アコーデオンによる歌声喫茶的なものを三〇分交代でおこない若いエネルギーをおおいに発散していただきたいと思います。

第三にワインコーナーはムード音楽を聞きながらじっくりグラスをかたむけたり静かにダンスをしたりして井草時代の甘いムードにひたれるようにしておきます。

昭和四十三年度 活動方針案にかえて

井草会々長　築山俊一



現在の井草高校同窓会は、第二十六回目の卒業生を迎え入れ、会員数六千余名、幹事だけでも二百名以上の大きな組織に発展してまいりました。

しかし、これはあくまでも数の上でのみの発展であり、実際には組織自体大きな曲り角にさしかかり、非常に大きな問題をかかえている状態です。

問題の第一は、これだけ多くの会員をかかえていながら、実際に組織を動かしていく上に必要な運営費の八割近くが、その年どしの新入会員の会費でまかなわれているということです。もし仮りにこのままの状態が続いていくと、近い将来には同窓会の案内を全同窓会員に通知する郵送費すらまかなうことが出来なくなり、同窓会の活動は完全にマヒ状態におちいってしまいます。

第二の問題点は、会を運営して行くにあたり、会員の増加に伴いより多くの活動出来る幹事が必要なのにもかかわらず、実質的には毎年三十名前後で、決して会員数に比例して増えていないということです。したがって年々幹事一人当りの責任が重くなって来ています。

この他諸々の多難な問題をかかえていますが、われわれ現役員の姿勢としては、現実に目を覆うことなく、若く新鮮さにあふれた会の特徴を大いに生して、将来を考えた格式高いビジョンをかかげ、積極的な前向きの態度で問題に取組み、一つ一つ意欲的に解決して行こうとえ考えています。

まず、今年度の井草会の活動方針とでもいうべき「井草高校と共に、この同窓会組織を維持、発展させて行くための必要な活動資金を確保しよう」という主題テーマをより効果的に実行していくため、今年度は

具体的に、現状を打破するための新しい改善策として、昨年度より取り入れた小委員会制度を徐々に確立発展させる方向にもって行きたいと思います。その中で特に今年度は、第一に規約委員会に力を注ぎ、転期に立つ同窓会を真剣に見つめ、長年会にとって最大の問題である会費徴収の解決策を見つけ出し、更にその解決策をより効果的に実行出来るように、役員会及びその他の規約を現状にマッチしたものに補足改正して行きたいと思います。

次に同窓生全体の心と心を親密に結びつけていく上に一番効果のあるものはやはり会報だと思いますので、会報委員会を充実させ、除々に出来るだけ回数多く会報を発行出来る方向にもって行きたいと思います。

さらに資金面では、同窓生の戸籍とでもいうべき名簿をキチンと定期的に作製するため、今年度よりその費用を積み立金として積み立てて行く方針です。

最後に、現在の幹事会の体制で小委員会制度を押し進めて行くには多少の危険性もあると思いますが、将来への足がためとして現役員幹事はもちろん、全会員の皆さんの協力によって、若さあふれる、活気のある同窓会を育てて行きたいと考えております。

昭和四十二年度 井草会会計報告

昭和四十二年度の井草会決算報告、及び昭和四十三年度の井草会予算（案）が、別表の通り幹事会において可決されたので報告します。

尚、この決算及び予算（案）は、来る五月十九日の井草会定例総会における承認事項になっているので、主要項目について若干の説明を加えます。

▼収入の部

新入会員会費——四十三年度新入会員四六四名の入会金及び会費。

雑収入——総会・井草祭における売店の利益金及び井草会名簿の売上金。

会費——井草会々員の会費。四十二年度は全く入金されていないが、今年度は規約委員会を中心として会費の徴収を計る。

▼支出の部

（総務）

総会補塡費——総会開催のための諸経費。特に人員補足のためのアルバイト料金。今年度より総会を活発にするため若干多く計上。

（幹事会）

会議費——四十二年度は幹事会及び役員会を予定以上開いたため、予算を超過した。今年度も昨年同様の会合が必要と思われる。

（事業費）

印刷費——会報の印刷代。四十二年度は会報を二回発行する予定であったが、年度中に発行出来ず決算は零。したがってこの号の印刷・発送費は、四十二年度よりの引続き事業であるが、会計は四十三年度予算より算出される。

発送費——会報の郵送代。決算は印刷費と同じ。

事業費のうち、この発送費に約半分を費されてしまうので、資金不足から会の活動も制限されてしまうのが現状である。

（その他）

同好会費——同期会・OB会等の開催に際して贈与する。四十二年度は宣伝不足のためか、申し込み団体がなかった。

積立金——名簿発行のための積立金。今年度は繰越金が多いため若干多く計上。

昭和42年度井草会会計並に昭和43年度予算書

昭昭42年度決算
収　入　532,205円
支　出　175,168円
繰越金　357,037円

収入内訳

	42年度予算	42年度決算	43年度予算
	円	円	円
新入会員会費	470,000	470,000	464,000
繰越金	35,431	35,431	357,037
雑収入	20,000	26,774	20,000
会費	10,000	0	20,000
合計	535,431	532,205	861,037

支出内訳

		42年度予算	42年度決算	43年度予算
		円	円	円
総務	通信	35,000	35,000	40,000
	備品	50,000	14,450	50,000
	印刷	10,000	10,000	12,000
	事務	15,000	13,480	15,000
	総会補塡	15,000	23,385	30,000
幹事会	会議	15,000	33,432	30,000
	通信	5,000	4,840	7,000
	交通	10,000	10,130	15,000
事業費	印刷	100,000	0	320,000
	発送	150,000	0	
	事務	75,000	30,451	
	取材連絡			
その他	同好会費	20,000	0	20,000
	積立金	0	0	300,000
	予備費	35,431	0	22,037
合計		535,531	175,168	861,037

井草会役員

昭和四十三年度

会長　築山俊一（十二回）
副会長　新井雅晴（十三回）　望月裕允（十三回）　市川曜子（十七回）　佐藤隆治
庶務　神吉幸子（十七回）　荻原清子（十七回）
（十八回）
会計　小野田照子（十四回）

井草高校同窓会のご案内

日時　5月19日（日）
（午後1時より5時迄）
会場　井草高校（講堂と本館）
会費　50円（飲み物券付）

ガイド・ブック

ヤングマン・コーナー　101会場

（なまのバンド演奏で歌ったり踊ったり、若きエネルギーを発散する室）

コンパ・コーナー　203.204会場

クラスや同期生、あるいはクラブOB生など好きなもの同志が自然に集まって歓談する室

ワイン・コーナー　202会場

静かにグラスをかたむけ、社交ダンスも可。サロン的な甘いムード

スポーツ・コーナー　講堂、校庭

講堂で卓班、校庭でテニスやバレーなど御自由にどうぞ

小委員会制度発足す

井草会はこの数年、毎年四百名前後の会員が増加しているにもかかわらず、会を運営して行く運営資金は、そのほとんどがその年の新入会員の会費及び入会金でまかなわれて来ている。そのため年々会員数は確実に増えて行くのに、運営資金の方は一向に増加せず、慢性的な活動資金不足がこの数年続いている。

こうした資金不足の状態にもかかわらず、現在までのところは幹事自身の責任と自覚によって、どうにか会としての活動を続けて行くことが出来ている。

がしかし、幹事の負担にもおのづから限度があり、現在の状態では近い将来にはかならず、会としての機能が停止してしまうことは明らかである。

こうした資金不足及び幹事不足という重大問題の抜本的な対策の一環として、役員会では昨年度より、各幹事の責任分担を明らかにし更に幹事会の機能を組織的に動かせるようにと小委員会制度を試みて来た。

この小委員制を実施するに当っては

一、井草同窓会をより拡大、組織的に充実させていく事を目的とし、出来るだけ多くの同窓生の意向を反映させながら、会員の代表である幹事個々が充分に活動出来るよう小委員会を設立し、各小委員会の力を結集して幹事会、役員会を盛り立てていく。

一、各小委員会の発足解散はその年の年間活動方針に従って流動的なものとする。したがって各小委員会の活動期間は一年を単位とする。

という二点に基本方針を置き、現在の井草会としての主な活動を大別して、それぞれに小委員会を設けることにした。

現在、井草会の主な活動として

(1)、年一回の定期総会の開催。
(2)、会員相互の連絡をはかるための会報の発行
(3)、定期的な名簿の発行。
(4)、総会・会報・名簿という各事業を行うのに必要な資金調達のための規約の改正。

ということが上げられる。

こうした観点に立って、昨年度は行事・会報・名簿・規約という四つの小委員会を設立して、井草会の活動を押し進めて行った。だが昨年は、実験的な試みということもあってか、各委員会ともその機能を十分発揮して、満足のいく活動が出来たとはいいがたく、特に会報委員会は、昨年度中に二回以上の会報を発行するという当初の予定を実行出来ず、今年度になってようやくその第一報を発行するといったように、残念ながら当初の目的を達成することが出来なかった。

しかし今年度も、この小委員会制を引続て採用し、昨年における失敗を十分検討し、反省の材料として、組織の運営面に新しい方法を盛り込んで、現在井草会が抱えている難問題を解決する糸口として行くつもりでいる。

林の中のボーンファイヤー

―湯の丸高原旅行記―

四十二年度の行事委員会の活動の一環として、同窓生相互の親睦を計ることを目的とした旅行が企画立案され、井草高校「からまつ山荘」を利用して昨年八月十三日より二泊三日の日程で行なわれた。参加者は約三十名ほどの少人数であったが、有意義な三日間を送ることが出来た。

八月十二日

ちょうど旧盆にかさなり、猛暑の中を満員列車とバスを乗り継ぐこと四時間余り。バスを降りると東京とはまるで別天地のようなすずしい風にうたれ、から松の新緑の林を見ると「今年もまた山に来たなあ」としみじみ思った。

東京のチリや排気ガスを掃き出し（まったくそんな気持がするのだが）、高原の新鮮な空気を数回吸いこむと、やっと人心地がつき、あたりに目を配りながらからまつ山荘に向って歩き始める。まもなく出来たてのほやほやの、一見別荘のような建物が見えてきた。それがわれわれの目的物であろうとは夢に思わなかった。というのは〝山荘〟という言葉のイメージからくるものとは、およそかけはなれた建物であったからである。

昼食をすませ一息つくと、湯の丸山を目指して出発した。湯の丸牧場の長閑な風景を見て心が大きくなったのか、蛮声をはりあげて歌をうたいながら登って行った。歌をうたいながら登ったせいか、またたくまに海抜二〇五〇メートルの湯の丸山頂に着いた。ここでみんな一諸になって合唱した（これは登りながらはりあげた蛮声とはちがい、だいぶ歌らしくなっていた）。その歌声はあたかも山頂から見えるすべての所へ聞こえるかのように、山の中に消えて行った。

夜、夕方から組んでおいた薪を囲んで、井草伝統のボーンファイヤーを行った。ボーンファイヤーといっても井草祭のような大きなものではないのだが、六六四坪のから松の林の中で行なうボーンファイヤー、真暗な闇の中に赤々と燃えるキャンプファイヤーはかくだんときれいで、こんな環境で歌をうたい、フォークダンスを踊っていると、在学中一度も会ったこともない人や、入学したときにはすでに卒業してしまっていた先輩などに〝ああ、やはり時期は異なっても同じ井草を出た人だなあ〟という親しみが沸いてきて、ここにきてよかったなあという実感が手に取るようにわかった。

八月三十日

朝、山荘で作ってもらったオニギリを持って池の平に向う。ここは低湿地帯であやめなどが咲きみだれるそうであるが、残念なことにその時期でなかったために見ることが出来なかった。しかし広々とした草原におもいっきり手足をのばして遊ぶことが出来た。ところが昼すぎになると、女心と山の天気はなんとかやらいわれているように、今まで晴れていたのに雨が降りはじめてきたので、予定をくりあげて早々に山荘に引き上げた。今日は昨日と異り、みんなうちとけ合っていたから、トランプ、卓球に興じ、夜は全員が一室に集まってゲームをしたり歌をうたったりしてすごし、夜の更けるまで笑い声が山荘をつつんでいた。

八月十四日

午前中は自由時間。部屋でトランプをする人や、山荘の囲りのから松林を静かに散策する人。また昨日の勝負に決着をつけようと卓球で汗をかく人たちなどと思いおもいに遊んでから、午後、またこの山荘へ来る日を誓い合って東京への帰途についた。

×　×　×

この三日間は本当にたのしい三日間でした。同窓会の総会のように参加人数は多くありませんでしたが、少ないなりに参加した人全員が本当の心の交流を持つことが出来て、まことによい企画だったと思います。

歌をうたいながら山に登り、キャンプファイヤーを囲んでフォークダンスを踊ったという思い出は、井草で過した高校時代の思い出と共に青春の一ページとして深く心に残るものと思います。高校十八回卒　佐藤隆治

幹事一年生の弁

高校十九回卒、宍戸文男

ある人と、ある人の対話

どうして幹事になんかなったの——クラスで選ばれたから、素敵な人と一緒に仕事が出来るかもしれないから、先輩づらして井草に行けるから、いや、本当は井草が大好きで、何となく離れられなかったんだな。でも、幹事会ではどんな事をしているのかなんていうことは全く知らなかったな。初めての幹事会までは。

その初めての幹事会での感想は——満員でしたね。若い人ばかりで、オジさんやオバさんみたいな人は全く居なかったな。その方がこちらでは気軽に入り込めていいな、なんて感じたのが、後で間違いだったことが分かりましたけれど。

それから一年経ってどう——随分出席しました。結局ひまつぶしのつもりで出席したみたい。他には——やっぱり僕を引きつけるものあったんだと思うけど。

女の子かい——当然。しかしそれもあるけど、僕がいなくなったら幹事会がつぶれてしまうと感じたんだ。少し言い過ぎかな。それにA先輩は……のことなら何でも話が合ったし、B先輩はたよりない兄貴の感じ、C先輩はいつでも沢山お金を持っていておごってくれた等々、良き先輩に恵まれていたね。

もっと他に真面目な問題で感じたことは——幹事会に出席する人が少ないんだな。それも二十才前後の人ばかりで、同窓会六千名を対象とする幹事会にしては心細い感じ。幹事の集りが悪いから、ごく限られた人ばかりに負担がかかりすぎてさらに問題、悩みが積み重ねられて、幹事会、特に役員会の人たちの過労から崩壊するんじゃないかという気がしないでもない。

これからも同窓会の仕事をやって行く——いろいろと面倒なこともあったが、この一年間幹事という仕事をして得たものは大きく、貴重なものであったと思うよ。あと何年続くかわからないがさらに勉強をしていきたいと感じている次第ですね。

井草高校　先生往来

着任

小出　光先生（国語）
明治四十四年、東京都生れ。国学院大学卒業。昭和四十二年四月、都立京橋商業より来校。
現住所・練馬区東大泉三五一

鎌田敏雄先生（数学）
昭和十年、東京都生れ。東京学芸大学卒業。昭和四十二年四月、都立一橋高校より来校　趣味・園芸。
現住所・東村山市萩山町四の三〇。

村野英克先生（数学）
昭和十年、東京都生れ。東京教育大学卒業。昭和四十二年四月、都立府中高校より来校
趣味・音楽を聴くこと。
現住所・練馬区小竹町二の四九。

中村佑二先生（倫社）
昭和五年、東京都生れ。早稲田大学卒業。昭和四十三年四月、都立昭和高校より来校。
趣味・音楽。
現住所・杉並区西田町一の五七一。

増田　信先生（倫社・政経）
大正十二年、福井県生れ。東京文理科大学卒業。昭和四十三年四月、都立上野高校より来校。
現住所・新宿区南榎町二。

岩崎英子先生（生物）
昭和五年、埼玉県生れ。奈良女子大学卒業。昭和四十三年四月、向丘高校より来校。
趣味・新劇観賞。
現住所・世田谷区弦巻町五の一〇・四一三一。

転・退職

山本哲夫先生（国語）
四十二年三月、都立紅葉川高校へ転職。

渡辺　優先生（数学）
四十二年三月、都立明正高校へ転職

佐藤幹一先生（音楽）
四十二年三月、国立東京学芸大学付属高校に転職。

宇井　茂先生（英語）
四十三年三月、退職。

大隅芳秋先生（社会）
四十三年三月、都立北園高校へ転職。

松原保久先生（生物）
四十三年三月、武蔵野市教育委員会指導主事に転職。

井草高校第十九回卒業　会員名簿

A組　担任　山田　稔先生

渥美慎一郎	成蹊（工）	中野・松ケ丘一—二〇—二
荒井　健一	芝工（工）	練馬・上石神井二丁目一五〇九
生駒　定男	中大（法）	中野・江古田四丁目四三—一七
大谷　吉史		練馬・南大泉町五八五—一
太田　好孝		埼玉県・川越市南大塚一二九九—一三
小沢　邦義	武蔵工大（工）	三鷹市・下連雀二三〇
小田　義広		練馬・関町一—一三六
加藤英二郎	独協（経）	中野・新井町二—二九—一〇
桑原　清文	明学院（経）	練馬・豊玉中三—一〇
倉重　哲幸	千葉工大（工）	中野・上高田五—五—一四
駒屋　伸雄	日大（理）	練馬・南大泉町七五一—一五
国分良太郎	信州大（センイ）	杉並・荻窪四—一〇五
佐藤　孝保	明大（政経）	中野・鷺宮三—四二—一一
田川　民人	早大（商）	杉並・井草二丁目二—一五
高橋　勉	早大（法）	北多摩・保谷町下保谷一〇〇二—二
高橋　秀樹	理大（応化）	北多摩・保谷町下保谷ひばりケ丘団地七一—一〇四
武井　信雄		北多摩・保谷町下保谷一五六四（横山方）
成道　収一	帯広畜産（農）	武蔵野市吉祥寺北町四—四—二五
幡野　仁美	日大（理工）	杉並・阿佐谷北三丁目四—一五
平田太美雄	農大	杉並・上井草三—一七—三
堀　義昭	早大（法）	練馬・関町四—六九八—二
間宮　直利	日大（法）	新宿・白銀町二九朝日生命アパート—一五
松原　達見	中大（法）	北多摩・久留米町南沢七五二
宮崎　章	東洋短大	杉並・天沼三—三—一一
山根　啓吾		練馬・桜台六—一八—九
八坂　裕三		中野・若宮三丁目五八—二一
綾田　律子		杉並・下井草二—一〇—一〇
新井　秀子	宇部興産	杉並・高円寺北四—三一—一八
井一　佳子	富士銀行	練馬・下石神井一—一三六
奥山志穂子	大蹊（文）	練馬・下石神井二—一六八〇
岡本　直美		埼玉県・所沢市下新井こぶし団地六一三
大方　啓子		練馬・西大泉町八一五—二
北川真由美	津田スクールオブビミネス	練馬・旭丘一—二一
佐藤　洋子	明大（文）	練馬・富士見台一—二〇—一九
高瀬　道子	明学院（文）	埼玉県川口市・朝日町二—九—一七
小松　和子	武蔵野女子	杉並・上井草一—一—三
長田　千穂	田中服装	北多摩・田無町一九二七—一九
杉山　貴子		中野・松ケ丘一—三二—五
多比良麗子	恵泉短大（農）	杉並・西高井戸一—一—一八
中村　秀子	日本銀行	大田・調布大塚町七六〇日銀雪ケ谷寮一一三号
中村真里子		千葉県印旛郡四街道町大日緑ケ丘三五〇
中山　則子	東京女子短大	杉並・西高井戸一—一—一〇
野沢　涼子		中野・白鷺二—一—一五
星野　雪華	むさしの美術	中野・桃園町二五
堀井　久子		北多摩・保谷町富士町四—三〇—七

B組　担任　山本　哲夫先生

増田真理子	日本デイタースクール	北多摩・田無町一三〇二
松江三美子	明治短大（経）	練馬・下石神井二—一二二桜荘
松永　洋子	青山（経）	杉並・高円寺南二—一六—一〇
三関　紀子	富士短大（経）	練馬・旭町三四九
山本のり子	東芝商事	杉並・桃井一—一—一二
安田　典子	日本体育大（法）	練馬・東大泉町三五一
矢作千枝子	実践短大（家政）	練馬・向山町四—一—六
青井　透	武蔵工業大	杉並・松庵南町六
井手　幹夫		練馬・東大泉町四四
上村　敏明	日大（理工）	練馬・上石神井二—一四四三
荻原　寛	電機大（工）	練馬・下石神井二—一八三八
金子　信一		中野・新井町四—一八—一一美晴荘
嘉茂　秀起		杉並・上井草四—一五—一七
佐竹　博	東工大	練馬・下石神井一—二一
佐中　達郎	芝工大	中野・丸山一—一〇—一〇
柴崎　雅郎		杉並・井草三—二三—六
下村　千秋		練馬・旭丘二—八
鈴木　恒夫	武蔵工（工）	練馬・下石神井二—一六九二
鈴木　正光	都立大（法）	練馬・旭丘二—九
高橋　博		練馬・小竹町一—八一
田村　潤史		練馬・田無町一四〇八
辻　梓	芝工大（工）	中野・小滝町五〇
角田　芳人	青山（法）	中野・若宮一—八—一一
中野　敏夫		杉並・今川三—九—九
野口　文男	農工大（工）	北多摩・田無町三一〇一
長谷川俊夫		杉並・荻窪二—一三三
浜中喜一郎		練馬・関町五—一八五
広田　紳一	日大（工）	杉並・清水一—二九—九
平野　明雄		練馬・豊玉南二—一六
福島　健		練馬・貫井町四三五
松岡富士夫	早大（政経）	練馬・桜台五—一八—一七
森田　良治		千葉県柏市豊四平団地八五—三〇七
八幡　茂木		練馬・南田中町四九六
秋山　佳子	日大（芸）	練馬・下石神井二—一六八〇
阿久津幸子	日大（芸）	練馬・桜台一—四二
浅野真紀子	安田生命　東洋大（二文）	中野・若宮三—五七　都営住宅一—四
天野　陽子	白百合女子短	練馬・豊玉中二—一二一
今福由岐子	安田信託	練馬・上石神井二—一二三六
内山　久子	大妻女子短大	中野・野方六—三一—一六
奥出　敏子	青山（文）	練馬・富士見台一—二六—二九

井草を去るに当って
思い出に残る井草祭

＝前井草会顧問　大隅芳秋先生＝

昭和二十五年の四月から十八年間の長い間おせわになった憂すべき井草を去って、この四月から板橋区の北園高校定時制主事をつとめています。毎日三時頃家を出て十時半から十一時頃に帰宅します。昼間はリラックスして夕方から夜に心身の緊張時を持って行くという生活のリズムはまだ改めていません。あと半年もすれば崩れてくだろうと、先輩の大野英雄先生（鶯宮高校主事）が教えてくれた。

井草はもとの十八高女、ここで十八年間勤務したのも何かの偶然。こんどの学校はもとの第九中学。ひょっとしたらここで九年位い勤めるかもしれない。

さてわが親愛なる井草の同窓生六千有余の方々に、同じ母校を持った者の仲間入りをさせていただくご挨拶を申し上げたい。敢て私は井草を「わが母校」と申し上げる。私の人生の三十才から四十八才までの最も活動出来る期間、十二分に教育の実践をさせて頂き、教師としての知識と根性と体力を養い育ててくれた井草を「わが母校」と呼ぶのにふさわしいと思う。

教科では一般社会・時事問題・社会科社会・倫理社会・政治経済と教育課程の変遷につれて呼び方は変っていったが、いわゆる社会科を中心に教室では諸君に接した。専門教科の知識が乏しくて誠に不満足な授業でお恥ずかしいことが多かった。しかしあれが私の精一杯の努力として、あれ以上のものは私にはないように思う。

クラブはずうっとテニス部の顧問で、多くのテニス愛好者とよく練習させて頂いた。テニスは中学一年の時に始めたのでもう三十五年になる。今日も井草のコートで出勤前に練習して来た。テニス部員の一人一人のそれぞれのフォームの特徴を、名前は知らなくても顔を見れば思い出す。佐藤康夫君のようにテニス部員同志で結婚した人もあり、なかなか思い出は多い。職員テニスも毎年秋の第三学区戦に出場、一昨年は本校創立二十五周年記念を祝うように団体優勝した。当時のメンバーを忘れないために記しておこう。谷・天野組、広川・三柳組、大隅・茅根組の三組。昨年はこの中から広川、三柳、茅根の三選手が不出場であったが準優勝するなど、層も厚くなったように思う。心身の健康のために職員テニスがますます盛んになることを期待している。

校務の方は主として生徒指導部に属していたので、生徒諸君と接触する機会が多かったことは有難いことでした。三十三年頃、当時の生徒会長の福間君や弟子丸君、神保君たちの手で学校祭を「井草祭」と名付けて、一週間も楽しい行事を繰りひろげた当時が一番思い出に残る。林間学校やワンゲルにもよく付いて行った。おかげで井草に来てから生れて始めての土地をよく歩いた。更科、北八ツ岳、白駒池、金峯山、尾瀬、北アルプス裏銀座、妙主山、上高地、湯の丸等。合宿で行った富士見高原、山中湖平野部落、諏訪市営コート、霧が峯等。いつの間にか私は山歩きが好きになった。大低の山は重ねて行きたくなるものだが、妙高山だけはもう行きたくない。何故だかよくわからない。

最近の卒業生はよく知らないことだが、ある時期に石神井高校との親善大会と、井草・独協・和光学園の三校親善大会という交流会が数年続けられたことを覚えている人もいるでしょう。あの頃が井草生徒会の最も活気のある全盛期であった。現在の在校生は大学入試に追われ、マンガとグループサウンズに息抜きを求めているように見える。

十八年間に校長先生が五人替われた。杉山先生、高柳先生、真田先生、藤井先生、そして今の前島先生。それぞれ個性豊かな先生方で、教えられることが少なくない。同窓会の顧問を引受けてから十年位いになるだろうか。会長さんも河原（須貝）さん、茂庭さん、遠藤君、蕪木君、築山君と五人の方とおつきあいした。若い幹事諸君が日曜日をつぶして会の推進を熱心に討論されているのを私はこの上なく楽しく聞いていた。若さは美しいと思う。顧問を飽きもせず十数年もお引受けしたのは、若い人たちの純粋な討論を聞くのが楽しかったからである。

私の教育実践を支えた教育理論は、戦後復員して文理科大学の教育学専攻の学生として勉強していた時のものである。戦前台湾の公立学校で三年間、植民地教育に従事した経験や敗戦時における私の所属していた部隊の個々の兵隊の自主性のなさなどが、強烈に戦後のいわゆる新教育理論にとびつかせた。本当の教育とは何だろうか。民主主義は果して日本に根付いただろうか。新憲法で永遠の平和を誓い、教育基本法に人類普遍の教育原理を見出した日本人は、もうあの決意を忘れたのであろうか。

――私は今、夜の職員室で思ったより明かるい生徒の声を聞きながら、私の仕事を考えている。井草での実践を基礎にして。

から松山荘のご案内

井草高校の山荘が、上信越高原国立公園、長野県小県郡湯の丸高原の美しいからまつ林の中に建ちました。

この湯の丸高原は交通の便が良く（信越線小諸駅または上田駅下車）また文教地区に指定されているため、一般の観光地みたいに俗化する恐れがなく、充分に自然の美しさを味わえます。

四季を通じて咲き競う花は豊富で、特に六月上旬からのつつじは実にみごとで、天然記念物に指定されています。さらに七月に入るとこの湯の丸高原特有のあやめが一面に紫のジュウタンをしきつめたごとく咲き乱れます。

また名も知らぬ可憐な高山植物も沢山見ることが出来ます。冬はスキー場としても知られており、特に最近は初心者向きのゲレンデも新設されました。このように四季を通じて自然を満喫出来る、山荘としては最適な場所です。

からまつ山荘使用規定（抜粋）

申込み　使用希望者は、使用七日前までに所定の申込書に使用料金を添え事務室に提出して、学校長の許可を受ける。現地での申込みは受付けない。

使用料金　在校生　五五〇円
卒業生　六五〇円

ただし一泊三食とし、自炊は認めない。なお十月から翌年四月までは暖房費一〇〇円を追徴する。

使用期間　本山荘の使用期間は原則として三泊四日を限度とする。

おたずねします

次の会員の方々は、井草会としては住所不明となっております。もし心当りの方がおりましたらば、お手数ながら左記までお知らせ下さい。（　）内は旧姓

連絡先・練馬区上石神井一の四〇
井草高校　井草会

◇高等女学校第一回（昭和二十年）卒業

一組（担任・青山千代先生）
青津輝子・安藤数子・丸山洋子・篠原智恵子・辻登美子・水野礼子・鬼頭典・小島泰子・山田翠子・金巻（相良）美和子、曽根原京子・武田綾子、式知田鶴子、田島敏枝、宮崎（垂井）昭子、平山（手塚）佳子、矢野（十一）陽子、吉野（西脇）恭子、宿輪（藤原）典子、星野浜子、早川（古木）和江、細井モト、森（松儀）恵子、小沢（谷井）孝子、本郷（渡辺）峯子、

二組（大西次丸先生）
池永玲子、小泉タミ子、滝沢（小松）元子、椎名千恵子、桧山（芦沢）月子、川又（中里）和子、中沢久江、後藤（中島）葉子、中村きみ子、平塚恭子、増子スシ子、藤森ふさ子、佐野（安井）芳香、小川和子、

三組（桑原富美子先生）
明美、内田八重子、大野マス江、相波（小川）京子、金沢俊子、加藤裕子、佐藤幸子、須磨礼子、平寿、神成（田中）里増、千葉典子、中島慶子、松村（原）喜久枝、木内（深沢）千代子、前山あや子、森島（村井）佳律子、柳沢（森）敦子、米須幸子、

◇高等女学校第二回（昭和二十一年）卒業

一組（大西次丸先生）
堀越（北原）和子、斉藤繁、林桂子、古川（森田）貴美子、山本幸子、

二組（古屋尚子先生）
丸山（小西）迪子、桜井美代子、中山（旺田）耿子、吉田（柄谷）知子、久保園（土井）和子、大坪（横田）和子、

三組一（大野英雄先生）
荒井秀子・市の川隆子・神山和子・高山（近藤）登志子・小島さと・今西（小森）和子・倉田（坂口）郁・宮川（田中）文子・三浦（玉井）喜美子・楠瀬（中野）節子・菊地（早川）千枝子・深尾（山田）千恵子・森永（吉田）裕子

四組（石川悌二先生）
朝倉桂子・上田昭子・星野万里子・大辻浩子・加藤（川口）昭子・村上（小泉）幸子、

◇高等女学校第三回（昭和二十二年）卒業

永島かおる先生
大明（大内）美代子・津田（大淵）恭子・本部（加藤）滋子・上村（北島）貴美子・熊谷淳子・三枝みわ子・大塩（関根）和子・芹沢智子・高田澄子・山村（高田）典・小菅（高野）恵美子・田島千枝子・津田道子・国分（寺田）和子・岩本（戸高）季子・中島正・山中（成田）美恵子・村越（成瀬）伊久子・天野（野沢）俊子・福尾（福田）雪子・村越昭代

加藤　章子
清水　保子
栗原美代子
須川　啓子
鈴木　恵美
鈴木みさお
竹内　恵子
田中　邦子
長島西加江
並木　妙子
日田真知子
松山　道子
山田　静恵
横尾　英子

富士鉄
学習院女子短
跡見学園
早大（教育）
商工中金

練馬・春日町二―二九九〇
杉並・上井草三―一八―二〇
北多摩・清瀬町中里一七二九
練馬・北田中町一二三〇
練馬・貫井三―三一―一五
杉並・上井草一―二〇―一九
中野・栄町二―三七栄町住宅三二
三号
練馬・関町五―四五三
練馬・上石神井一―三二一
練馬・南田中町五二七
杉並・上井草二―二三―五
練馬・東大泉町一二八七
練馬・桜台一―二二
練馬・関町二―一〇―一九
杉並・上井草三―一八―二〇
練馬・東大泉町三五七
杉並・松ノ木町一二八一
中野・江古田二―一〇―一九
練馬・下石神井一―五九三

C組

担任　岡垣　克己先生

有川　裕俊
飯塚　茂
石川　恒保
出水　保喜
植村　孝美
長内　健一
可児　克之

立大（経）
日大（芸）
日大（生産）
中大（法）

横田　和子
吉田　和子
吉村　信子
渡辺　厚子
渡辺田紀子

玉川大（文）
共立女子短大
兼松商事
津田スクールオブ・ビジネス　杉並・天沼二―四四―三
日本女子（家政）練馬・下石神井一―五九三

木下　好和
金原　進
沓内　実
熊谷　晴夫
小久保敏雄
後藤　憲
佐野　正純
島川　徹
富樫　源一
徳重　潔
長田　敏男
中村　文夫
平沢　洋
広瀬　久章
猿子　竹夫

学習院（法）
立大（社）
中大（法）
立大（経済）
法大（法）
中大（商）
早大（政経）

練馬・関町六―三〇九
練馬・上石神井一―六四八
杉並・阿佐ケ谷北五―二三―三
杉並・桃井一―七―三
練馬・上石神井一―三五三
練馬・大泉学園町九九七―一
北多摩・久留米町ひばりケ丘団地二八―三
杉並・今川三―七―二
練馬・東大泉二四九
杉並・桃井二―一七―二四
北多摩・保谷市上保谷一八三二
北多摩・田無町九三
杉並・西荻北一―四一―七
北多摩・保谷市上保谷二二七二
杉並・善福寺二―一八―五
小平市・学園東町一三
練馬・上石神井二―一七〇八―一
練馬・栄町一二
埼玉県所沢市住吉町八五七
練馬・東大泉町三五一
杉並・高円寺北三―四〇―一四
埼玉県北足立郡大和町白子一九四一

水野　重和
山内　民雄
山田　完
山本　康稔
吉沢　典世
浅田真佐枝
油田　憲子
今井真知子
笈川　裕子
粕谷　静江
勝木　慶子
加藤　洋子

岩手医大
立大（法）
芝工外
日大（芸）
共立女子短（文）
住友商事
女子美（造形）
東洋英和

練馬・谷原町三―一一―一
練馬・南田中町四七〇
埼玉県所沢市山口一一七九
中野・新井町一―三五―一四
埼玉県所沢市寿町一三七
杉並・今川一―四―八
杉並・上井草一―九―二一
杉並・阿佐谷北四―二三―九
杉並・下井草二―二五―一八
北多摩・田無町四六四
練馬・上石神井二―一七四五
練馬・早宮三―三八―二六

岸田路実子
小淵　久枝
斉藤ひろみ
佐藤ますみ
新館　道子
砂川　明子
醍醐美恵子
高橋　芳子
高山　照代
高島みち子
戸田のり子
友沢由紀子
野沢　幸江
本多　雅代
益田　洋子
松下　康子
湯沢　常子
横田志津子
吉田きみ代

学習院（短）
青山（教育）
東京ガス
学芸大（理）
日本住宅公団
富士銀行
伊勢丹
成蹊（文）
山一証券
東京女子短（英）
東邦物産
東洋大（文）
千代田化工
文京女子短（英文）

練馬・高野台五―九―四
杉並・上井草三―三一―二三
中野・上高田五―五―八
練馬・東大泉町八二〇
北多摩・保谷市上保谷一六九八
府中市・紅葉ケ丘二―二三―二八
北多摩・保谷市上保谷一六〇五
杉並・井草一―一〇―一〇
練馬・関町二―四一
新宿・中井二―一―一七
練馬・南大泉町七六〇
渋谷・幡ケ谷一―二四
練馬・上石神井二―一七八二
杉並・東田町二―二二一
板橋・下赤塚一七八九
中野・白鷺二―三一―七
中野・野方六―四一―一六
中野・上鷺宮三―一六―一五
練馬・早宮二―二〇―二一

D組

担任　渡辺　優先生

安部　滋幸
伊熊　治喜
市原　徹
伊藤　正幸
大島　規男
奥村　裕
加藤　勉
隅田　博彰
隅部　和俊
小林　岳紀
斉藤　滋樹
境田　雅陽
関根　正憲
高樋　澄人
高野　博
田崎三千男
寺沢　謙
中村　誠
中村　力夫
広松正二郎

成蹊（文）
東京経大（経）
武蔵（経営）
明大（経営）
学芸大
日本交通公社
立大（社会）
慶大（法）
日大（法）
武蔵大（経）

練馬・下石神井一―五六
杉並・高円寺南三―四八―一六
杉並・下井草四―一〇―一
杉並・松庵北町一四二
中野・野方町二―七―一一
杉並・西荻窪一―一五〇
中野・野方町二―七―一一
練馬・下石神井二―一三三五
杉並・今川四―一五―二〇
練馬・春日町一―二二六六
練馬・上石神井一―三二八
北多摩・田無町一四八一
中野・若宮三―五八―二四
北多摩・保谷市下保谷八六五
練馬・練馬一―二三―二
練馬・練馬一―一―一三
練馬・早宮三―九―七
練馬・南大泉二〇一
中野・上高田三―一七
杉並・西田町一―五五二　第三都住一ノ三
杉並・西高井戸一―九二
練馬・春日町一―二五六二
練馬・谷原五―七―一四
北多摩・保谷市下保谷一四八〇
中野・上高田三―二二―六
杉並・上井草二―一八―一三
中野・鷺宮四―四三―一五
練馬・下石神井一―六八
練馬・高野台三―二二―一三
杉並・阿佐谷北六―五―一六
練馬・桜台一―二二
北多摩・保谷市柳沢一―一四―一四
北多摩・保谷市富士町四―二八―一〇
練馬・桜台三―二九
北多摩・清瀬町元町二―七―一九

堀内　達夫
本間慎一郎
水村　博行
武藤　健
森田　公平
山崎　清憲
山田　光夫
池田　陽子
稲垣はるみ
岩瀬　充枝
大出喜久子
太田　典子
大村　幸子
小沢　秀子
加藤　好江
亀田　知子

理大（理）
成蹊（経）
学習院（文）
日ソ学院
田中千代服装学院
玉川学園
東京電力
商工中金
富士銀行
東京女子短

北川冨紀子		杉並・堀之内一—二三三　堀の内マンション六号
河野　邦子	朝日生命	中野・白鷺三—三—七
小林　照子	労働金庫	練馬・春日町二—二七四七
斉藤　幸子	富士銀行	練馬・西大泉町一七七八
坂口　敏枝	住友銀行	練馬・下石神井二—一八三五
坂崎　伸子	平賀K・K	練馬・貫井町四四二
佐藤とも子	中大(文)	中野・鷺宮三—一〇九
鈴木　博美	恵泉女子学園	小金井市前原町二—四八六
中西　道代	実践女子学園	杉並・阿佐谷北一—一七—一八
長須賀貴子	教育大(教育)	練馬・氷川台二—一三—一一
早川　洋子	区役所	中野・仲町一五
牧野智江子		練馬・関町一—一二五
森田　和美	学芸大	杉並・大宮前二—七〇〇
山岸富美子	理大(理)	杉並・和泉四—三七—四
山本喜代子	安田信託	練馬・関町二—三七
渡辺　享子	三和銀行	練馬・春日町一—一八二七

E組

担任　林常雄先生

朝見　宗明	理大(理工)	調布市・若葉町一—一—七八
伊沢　秀雄		中野・野方町一—四三—六
稲子　栄雄	青山(経)	練馬・上石神井二—一六八八
尾崎　建二	慶大(商)	杉並・高円寺北四—一六—一二
木村　善行	中大(法)	北多摩・久留米町門前三四六
熊代　満		杉並・下井草二—一七—一四
坂本　昭次	電機大(工)	練馬・下石神井一—一一五
坂本　芳三	上智(工)	練馬・下石神井二—一二八六
桜井　要雄	工学院(工)	練馬・上石神井二—一五三二
菅原　彰		杉並・下井草四—八—一四
佐々木栄治	青山(経)	杉並・荻窪三—一八九
鈴木　哲夫	信州(工)	中野・新井四—二五—一一
佐藤　健一	立大(社)	練馬・大泉学園町二三〇三
柴野　裕	学習院(経)	杉並・成宗一—一七八
杉村　栄一		練馬・南大泉町三四五
高梨　恒雄		杉並・上井草二—三八—三
土井　一夫	日大(理)	練馬・北田中町一二一五
長尾　裕美	室蘭工大	練馬・上石神井二—一六—一四
中野　正夫		杉並・善福寺一—二一—六
名古屋信行	テレビ工学専門学院	北多摩・保谷市本町四—六—一一
西尾　友雄	明大(経営)	練馬・東大泉八一〇
橋本　直也	慶大(経)	練馬・下石神井二—一六八九
三木　洋	立大(経)	練馬・東大泉一三一
樋口　康司	東洋(理工)	練馬・南田中町四〇
宮崎　昭平	法大(工)	練馬・下石神井一—一二一
山口　雅樹		練馬・下石神井二—一六八〇
秋場理代子	二松学舎(文)	練馬・東大泉町九五八
新井　洋子		練馬・小竹町二—一二五
今泉なな子	明学院(文)	練馬・春日町二—一二八八
大浜　伸子	第一通商	練馬・上石神井一—九四
大村あつ子		杉並・上高井戸三—六四八
小野紀代子	富士電機	練馬・東大泉九〇三—四六
栢森はるみ		中野・野方二—一〇—七
近藤てるえ		練馬・栄町三九
玖野　順子	第一銀行	練馬・東大泉二—一
坂下真理子	千代田工	中野・野方三—五—一二
白戸留里子	富士電機	北多摩・清瀬町竹丘一—一三—三五
関口　高子	実践女子短	練馬・東大泉町二五一
津島　服美	大妻(文)	練馬・西大泉町八二九

辻　まち子		練馬・北田中町一—五八
中川早知子	東洋高圧	杉並・高円寺三—一五六
中原　幸子	日本楽器	武蔵野市境南町三—一三—九
奈良部純子	東邦音大	中野・江古田一—三—一二
陌　間和子	富士製鉄	所沢市大字所沢二三四一
藤原　陽子		中野・川島町二
町田　好子	成城(文)	杉並・桃井四—六—一九
松原　幸枝	青山(教育)	杉並・高円寺南五—二六—一九
松本　和美	国立音大	北多摩・田無町二七四六
溝口　孝子		練馬・下石神井二—一五五七
山越　静子	青山(文)	杉並・清水一—八—五
山本美代子	都立保母	練馬・練馬一—二三—三
吉葉　雅代	中野・新井三—一一	

F組

担任　井上武三先生

青木　道夫	東洋大(文)	練馬・下石神井二—一三四八
伊藤　明		練馬・富士見台一—三一—四
鹿島　明		練馬・春日町二—一二〇六三
金子　彰	学芸大	北・志茂五—一〇—一
岸　秀雄		中野・野方六—六—一二
北村　蔵人		埼玉県・朝霞膝折上の原四四〇—一三
酒井　宣明	青山(法)	中野・沼袋町三—七—一五
下田　康夫	青山(経)	練馬・谷原町五—一六—一二九
菅野　秀雄	水産大	練馬東大泉町五五二
杉橋　伸		北多摩・田無町二—一三一
高瀬　康久	法大(工)	中野・鷺宮一—二四—一九
滝田　哲夫	明大(工)	練馬・関町四—六二五
武波　恒夫	日大(建)	練馬・小竹町一—四七
友広　八慶		練馬・下石神井二—一三六六
西村　忠夫	理大(工)	中野・江古田二—一四—五
野村　啓二	成蹊(経)	杉並・下井草三—一〇—五
土生　茂		練馬・東大泉町九四五
藤森　邦雄	ムサシ(経)	練馬・上石神井二—九九一
古田　裕司	早大(教)	中野・鷺宮三—四一—二〇
密井　久雄	駒大(法)	杉並・上井草二—二一—八
三原　彰	成蹊(経)	杉並・桃井一—八—九
村上　省一	早大(法)	練馬・旭丘一—一二
安田　健正	電機大(工)	練馬高野台三—二四—七
山田　正勇		杉並・天沼一—三六—一五
山本　達男	立大(法)	杉並・桃井二—一〇—三
湯沢　仁	中大(法)	北多摩・田無町三—三八
井上　洋子	埼玉銀	中野・野方三—五—一六
大川　克江	東京デザイナー学院	練馬中村三—三八
岡部　純子	住友商事	中野大和町一—七—一
大津うめ子	朝日生命	練馬・東大泉町五〇六
嘉瀬　陽子	昭和女子(短)	練馬・中村二—三
斉藤貴美子	三菱銀	練馬下石神井二—一六三四
坂口　恵子	長瀬産業	中野・鷺宮六—二九—一〇
篠田　啓子	ムサシ音(短)	練馬・下石神井二—一四二三
清水　芳子	日本生命	中野・沼袋二—二三—一二
高田　節子	YWCA	杉並・西高井戸一—六五
多賀　恵子	東京S・B	北多摩・久留米町小山三八二
田代百合子	東京家政(短)	練馬・上石神井二—一五一五
田中　貞子	日立電線	練馬・下石神井二—一三四九
弟子丸三千代	三井物産	新宿・中井二—一二—九
中川三枝子	石神井農協	練馬・関町四—五六一
中島　賢子	女子美	練馬・・関町三—九九
中島　康子	立教女子(短)	北多摩・田無町一—二三—一〇
中田　満代	明学院(短)	所沢市・下新井こぶし団地六八六

中村　節子	安田生命	杉並・桃井一—二九—二〇
野口　五月	朝日生命	杉並・阿佐谷町南一—一一—三四
原　光代	三井生命	練馬・南田中町一〇四一
三浦恵美子	明治(短)	北多摩・田無町二三九三
守屋りん子	共立女子(短)	杉並・堀ノ内一—二七
矢野富志子	跡見(短)	中野・鷺宮三—三四—一
山川真知子	富士学院	練馬・東大泉町三〇五
若松　良子	明薬大(衛薬)	台東・元浅草四—六—一九志村方

G組

担任　玉置繁代先生

青木　芳郎		練馬・東大泉町五五八
赤坂　正人	日本歯科	小平市・花小金井南町一—一一六
池上　夏樹	農工大(センイ)	杉並・久我山三—一七—一
生駒　広幸		練馬・下石神井一—一五〇
礒部　孝夫	中大(商)	杉並・善福寺四—六—五
海老塚幹男		練馬・下石神井二—一二五九
北村陽太郎	慶大(英文)	北多摩・保谷市ひばりが丘団地八九—八
佐藤　彰展	東海大	北多摩・保谷市富士町四—一八—一〇
四ノ宮友行	多摩美	埼玉県武蔵町善蔵新田九三官舎三五
清水　正和	日大(農)	武蔵野市・吉祥寺東町四—一四—一
下田　広		小金井市・関野町二—一四—一〇
杉本　邦雄	明大(商)	北多摩田無町谷戸三〇二〇
鈴木　京二	上智(工)	杉並・成宗三—五一二
滝沢　修		練馬・高野台町五—二五—一一
田島　昭		杉並・本天沼三—二七—一二
田中　和宏		練馬・中村一—一三
堤　義一	日大(工)	杉並・久我山三—一八九
奈良　英治		杉並・西荻北三—三〇—八
西方　修	芝浦工大	練馬・下石神井二—一四三四
野崎　英雄	農大	練馬・桜台六—二七—七
福地　唯三		練馬・上石神井一—六五九—一六
二上　唯夫	横浜国大(経)	中野・上高田一—二七—二四
古田　義広	千葉工大(工)	練馬・東大泉町七五八
森田　正規	中大(商)	練馬・南大泉一六三
山本　好文		練馬・下石神井一—二一一—八
渡辺三樹男	中大(法)	杉並・阿佐谷五—四四—一四
安西　操	津田S・B	小平市・鈴木町二—二三九
井上　美子		杉並・大宮前六—三六六
小浦美知子		杉並・今川三—三—三
大川原裕子	青山(家)	練馬・旭丘二—一七
遅沢　信子	三菱化成	練馬・高野台三—二六—一二
川津　千代	ムサシ音大	練馬西大泉二〇六五—二〇
熊木　博子	日大(医)	杉並・高円寺南二—二〇—二六
斉藤　和枝	慶大(経)	杉並・桃井四—二一—一二
島田　良子	東京家政	練馬・小竹町二—五〇
清和みちよ	農大(短)	練馬・春日町一—二六八二
高田まち子	青山(家政)	北多摩・保谷市下保谷九四八
田中美恵子	実践女子(短)	北多摩・保谷市上保谷一六八八
堤見　晶子	女子聖学院	中野・江原町一—三六—一〇四七
常田　竹代		練馬・土支田町一—二七
徳永多美子	女子栄養	練馬・桜台三—三
中村　秀子	大東衛生	小平市・花小金井二—七五六
原　千晶	中大	練馬・桜台五—一五—一七
平方百合子	日大(法)	中野・鷺宮一—二五—九
平田みゆき		練馬・高野台三—三—六
藤森　潤子	青山(短)	中野・上鷺宮三—一四—一九

間宮真知子	東京文化	杉並・天沼二—二五—一一
宮本真理子	全購連	北足立郡大和町西大和団地三—三—四〇三
安原　礼子	武蔵音大(短)	中野・上高田四—三三
吉崎千恵子		練馬・関町四—五七二
吉田　栄子	富士銀	中野・松ケ丘二—一六—四
渡辺　和子	朝日生命	練馬・下石神井二—一八〇四

H組

担任　淵脇晃先生

阿部　宗友		練馬・東大泉九四〇
江木島英雄		練馬・東大泉町一六八
越阪部　透	電機大(工)	埼玉県所沢市西所沢一—二—三
金村　洋一		北多摩・保谷市下保谷一〇一二
北島　久司	明薬大(薬)	杉並・阿佐谷北一—三—四
木村　秀男	成蹊(経)	中野・鷺宮二—一—一
栗原　耕一	農工大	杉並・上井草二—二一—八
腰越　正男	立大(文)	練馬・谷原三—一八—一四
宍戸　文男	慶大(工)	杉並・大宮前六—三六六
島田　啓二		練馬・大泉学園町三一〇〇
鈴木　健三	上智(経)	杉並・善福寺二—一八—七
合田　和泰	日大(経)	練馬・東大泉町六三三
高本　明		練馬・桜台一—三六
竹本　正基	玉川(工)	練馬・小竹町二—一八
十字　文則	明大(政)	練馬・練馬一—一二—五
富沢　保		杉並・桃井四—一一—五
寺田　英視	上智(文)	杉並・上井草三—一八—七
土井　誠	電通大(物理)	練馬・春日町一—一三八四
中原　茂	早大(教)	練馬・谷原六—六—二
原　正信	立大(経)	武蔵野市・吉祥寺南町四—二〇—一四
古館　猛		中野・野方六—一〇—五
町田　昇	専大	練馬・東大泉町一七六
松井　和夫	電機大(工)	中野・沼袋四—二六—八
間宮　正義		杉並・善福寺三—八—一九
宮島　一夫		杉並・西荻北四—二〇—一
森岡　潤	上智(文)	練馬・上石神井一—一〇三
明田川芳子	太陽火災海上	杉並・西荻北四—二九—四
臼居　節子	国学院(文)	練馬・大泉学園町三〇八
大嶋みどり	竹早教員	北多摩・田無町四六四
折茂　良子	商科短大	練馬・富士見台一—一五—四
加瀬千鶴子	中大(文)	中野・新井一—三四—六
加藤喜代子	青山(文)	中野・大和町二—二五—三
川村みほ子	成蹊(経)	杉並・高円寺南二—三一—四
神田　陽子		練馬・下石神井二—一二三八
小出真知子	富士重工	練馬・北大泉町四六〇
向後　紀子	聖徳学園	北多摩・清瀬町中里一七二七
小林ミツ子		中野・若宮三—三六—一二
西郷　洋子	川村(短)	杉並・下井草二—二四—三
武田真砂美	日魯漁業	杉並・井草一—九—八
竹中　由美	日本女子大	練馬・豊玉中一—一〇六四
立野　悦子	ムサシノ美	練馬・桜台一—二五
永岡ひろみ	理大(薬)	練馬・春日町一—八一三
西岡由紀子	東京女子短	杉並桃井四—一五—五
長谷川温子	津田BS	中野江原町二—九—五
長谷部幸子	農林漁業金庫	中野若宮三—五七—三—五
桧山　設子	東京女子体育	練馬・桜台二—二七
平塚　洋子	山本工房	文京・本郷三—三—七
藤森　洋子		杉並・高円寺三—一八〇
南　啓子	成城(短)	練馬・練馬三—一〇—一九
村田　紀子		北多摩・田無町二三二八

矢島　礼子	星薬(薬)	練馬・南大泉町二四二
山之内啓子	共立(短)	中野・上高田三—七—七

I組

担任　大隅芳秋先生

安達　雅男	千葉工大	練馬南田中町一七一
石井　健三	本田技研	北多摩・久留米町小山三八二
猪股　正幸	日大三島分校	杉並・善福寺一—二二—一九
歌代　和男	中大	
岡田　俊雄	日大	練馬・北田中一—二八二
小田切義晴	日本経済短	杉並・高円寺南四—一二—四
小幡　正範		練馬・豊玉中一—一〇〇二
粕谷　巧		所沢市・山口一九一〇
川勝　文雄	法政	北多摩・保谷市下保谷六九八
木場　秀明	自衛隊	練馬・北町二自衛隊官舎五—五四
小池　照行	ホテルーオークラ	豊島・南長崎六—二一—二錦椎荘
児玉　均	早大	中野・大神町一四
近藤　恒夫	芝浦工大	小金井市・東町一—一二七
篠塚　明		杉並・上荻四—一〇—一七
菅井　俊夫	日大	練馬・下石神井二—一二二
杉浦　裕	東洋大	北多摩・久留米町大字小山字下山三三三—一一
大徳　俊幸	成蹊大	練馬・下石神井一—四二二
高橋　学	青山	埼玉・所沢市住吉町七〇
田中　隆司	埼玉大	練馬・大泉学園町二二八二
田村　彰夫	明治商事	練馬・練馬二—二八—一
中里　政義	和光大	練馬・立野町二—一〇〇
西島　文明	中大	練馬・高野台三—二五—一七
増田　孝治	日大	練馬・谷原二—一五—一〇
村上　雄三	農工大	杉並・西荻北三—一二三
村田　勉	拓植大	練馬・下石神井二—一六八〇
米良　能成	法大	練馬・富士見台三—七—三三
八重樫　薫	日体大	練馬・氷川台三—四—一〇
吉田　清	専修大	中野・野方三—二六—六
浅野　順子	ロゴス	練馬・上石神井一—六三
飯沼寿美恵	住友銀行	中野・沼袋町三—二四—一三
生野　元美	明治(短)	北多摩・保谷市上保谷二一四六
大竹みよ子	日大	北多摩・保谷市下保谷一五四〇
大西　洋子	ドレメ	目黒・原町一二四六　トミタデンキ内
尾野　文子	女子美	練馬・富士見台三—四—一三
笠原せつ子	津田S・B	中野・鷺宮一—七—四
久保田いつ子	青山	練馬・東大泉町八一六
桑山真知子	東洋大	埼玉県・所沢市松葉町六—八
沢田登美子	実践女子	北多摩・保谷市下保谷二六〇
篠原　礼子	富士銀行	練馬・貫井町一—四七—六
鈴木由紀子	日大	杉並・阿佐谷北三—三七—四
高島　まり	女子美	練馬・練馬二—一八—八
高橋　和子	朝日生命	練馬・東大泉町一九六
太刀川筆子	多摩美	練馬・下石神井一—一三六　芳賀敏夫方
友松美和子	共立女子	練馬・下石神井二—一三七〇
豊田　裕子	東京ガス	杉並・阿佐谷北六—四二—一一
平野千香子	ムサシノ女子	杉並・井草四—八—一四
福代みち子	慶応(看護)	北多摩・保谷市本町三—五—一八
牧内　恵子	明治(短)	練馬・上石神井一—一六八
松崎美保子	損害保険協会	中野・白鷺三—七—六
真鍋　秀子	学習院	練馬・関町二—二三
三木　恭子	東洋音楽	練馬・南田中町四五一
安田佐知子	旭ガラス	中野・鷺宮一—二六—一三
山本　恵子	日本女子	練馬・北大泉町四九
横田　洋子	就職	練馬・高野台五—三四—四